

平成 30 年度 第 1 回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議要録

日時：平成 31 年 3 月 27 日（水）10：00～11：00

場所：白石町役場 3 階大会議室

1. 開会【進行：白石創生推進専門監】

2. 会長あいさつ

本日はお忙しいところ「白石町まち・ひと・しごと創生推進会議」にご出席いただきましてありがとうございます。また、委員の皆様には、日頃から町政全般にわたって多大なご協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

さて、「まち・ひと・しごと創生」につきましては、平成 26 年 5 月 8 日、日本創生会議が、全国 896 の市区町村を消滅可能性都市として公表し、日本中に衝撃をもたらしたことに端を発しているところでございます。その後政府は、全国の地方自治体に対して、平成 27 年度中に人口減少問題に対する総合戦略を策定するよう義務付けたため、本町におきましても平成 27 年 11 月に「白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。

策定後は、国からの交付金を活用して農業塾や観光関連施策、6 次製品の販路開拓事業などを実施するとともに、道の駅整備事業をはじめとする様々な事業に町の単独事業として取り組み、総合戦略の中で目標としている人口ビジョンの将来展望達成に向け努力しているところです。

本日は、その総合戦略の取り組み状況の報告を主な議題としております。白石町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関しまして、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

3. 委員の紹介

資料 1 により委員の所属と名前を読み上げて紹介

4. 町担当職員の紹介

資料 1 により職員を事務局が紹介（一人ひとりの紹介を省略）

5. 協議事項【進行：会長】

(1) 総合戦略について（説明：事務局）

「白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、趣旨などを簡単に説明させてい

たきます。

総合戦略の 1 ページをご覧ください。平成 27 年 11 月に策定しました「白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「まち・ひと・しごと創生法第 10 条」の規定に基づき、白石町人口ビジョンにおける人口の将来展望等を踏まえ、白石町が今後行うべき具体的な施策を策定し、その実行により人口減少問題に取り組んでいくものです。

白石町人口ビジョン人口推計等抜粋編の 2 ページをご覧ください。人口の推移ですが、年齢 3 区分別の推移をお示ししております。棒グラフの一番上が白石町全体の人口で、青が年少人口 0 歳から 14 歳、赤が生産年齢人口 15 歳から 64 歳、緑が老年人口 65 歳以上となっております。一番左側が平成 22 年度国勢調査の人口で、全体で 25,605 人という人口でした。それが、2040 年には 18,475 人、2060 年には 15,025 人となる見込みとなっております。少し前の数値ですが、平成 30 年 5 月現在の人口が 23,425 人で、平成 27 年度と平成 32 年度の見込みのほぼ中庸の数値であることから、今のところ見込み通りに推移していると考えております。3 ページから 12 ページに旧町単位と小学校区単位の表を付けております。どの地区においても、ほぼ全体の人口と同様に推移しております。

13 ページをご覧ください。参考までに、年齢 3 区分の割合と世帯数の推計も説明させていただきます。一番左側、平成 22 年度の高齢者 65 歳以上の割合は 29.6%、生産年齢人口の割合は 56.9%、年少人口の割合は 13.5%となっております。お分かりかと思いますが、65 歳以上人口の割合が右側に行くにつれ広がっております。人口 2 万人を切ります 2035 年につきましては、65 歳以上の人口が 38.2%、生産年齢人口は 50%を切りまして 49.2%、そして年少人口は 12.6%となっております。この年が、65 歳以上の人口の高齢化率が MAX になる見込みとなっておりますので、単純にその年まで少子高齢化が進むという結果になっています。これについても平成 30 年 5 月現在の高齢化率が 33.16%と、平成 27 年と 32 年のほぼ中庸となっていることから、見込み通りに推移するのではないかと考えております。これも 14 ページから 23 ページに旧町単位と小学校区単位の表をつけております。

24 ページをご覧ください。世帯数の推計です。棒グラフが世帯数、折れ線グラフが平均世帯数です。平成 22 年度までが実績となっております。平成 22 年度の世帯数は 7,346 世帯に対しまして、平均世帯員数は 3.49 人となっております。それが人口 2 万人を切ります 2035 年につきましては、6,940 世帯で平均世帯人員は 2.81 人と、平均 3 人を割り込む見込みとなっております。この結果から核家族化が進んでいくことも予想しています。

総合戦略にお戻りください。計画期間ですが、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間としております。また、総合戦略の検証や改善などにつきましては、基本目標や具体的な施策に係る重要業績評価指標 (KPI) の達成度による、役場内やこの会議による検証、及び議会による審議を受け改善を重ねる仕組み・PDCA サイクルで行っていきます。そのほか、緊急的に効果的な施策の追加が必要な場合は、年度中途であっても改訂し、事後とはなりますが推進会議や議会で報告することとしております。

3 ページをご覧ください。「白石町まち・ひと・しごと総合戦略」では、4 つの基本目標

の実現を目指し、その具体的な施策に取り組むことで、白石町人口ビジョンの将来展望の達成に努めます。具体的な施策の内容につきましては、協議事項（2）の実施に関するスケジュールと一緒に説明させていただきますが、合計特殊出生率は、平成 25 年時点で 1.58 となっておりました。具体的な施策の中の「子育てしやすい環境への支援策」などで、合計特殊出生率を 2040 年（平成 52 年）までに 1.8、2060 年（平成 72 年）までに 2.0 に上げ、これに「若年層等転入のための施策」などで人口の減少をゆるやかにして、目標とする人口を 2040 年には 18,475 人、2060 年には 15,025 人に設定して、その達成を目指すということです。

総合戦略についての説明は以上です。

（2）総合戦略実施に関するスケジュール等について（説明：事務局）

資料 2 をご覧ください。最初にこの資料により、取り組み状況を簡単に説明させていただいた後、行政放送の映像で詳細な取り組みを紹介させていただきます。

基本目標①-1 企業や教育機関、公共的機関の移転の誘致による雇用の確保については、現段階では具体的な取り組みはできていない状況ですが、平成 28 年度に策定した国土利用計画では企業誘致をするゾーンをお示しし、また、佐賀県の企業立地課に職員を派遣するなどして今後の展開を検討しているところです。

2 新規就農者及び農業後継者の育成・確保（1）新規農業就業者対策支援、（2）しろいし農業塾、（3）農業従事者確保対策につきましては、全て着手済みで、その中でも農業塾の 2 期生は今年度で研修を終了し、3 名全員が就農されています。また、3 期生も 3 名の方が応募されており、4 月からイチゴのトレーニングファームで研修を始められる予定となっております。

3 新しいことへ挑戦する人への積極支援（1）白石町創業者支援制度（2）儲かる農産物の開発（3）6 次産業化の推進（4）商工業者などへの支援については、全て着手済みで、中でも農産物の開発では、佐賀農業高校の協力により 13 品目の開発ができております。また、この他にも佐賀大学生を中心とした SSJ（シーディングサポートオブジャパン）というグループにより白い農産物の開発にも取り組んでいただいています。そして、6 次産品については今年度末で 65 品目の開発ができる見込みとなっております。

4 ふるさとで活躍する人材の育成については、全て着手済みで、先ほど説明しましたとおり佐賀農業高校には農産物の開発をお願いし、また、来年度にはサノ・ボヌール（ケーキカフェ）を白石町内で開店していただくことを現在相談させていただいています。また、白石高校につきましても来年度は県の事業になります「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」において連携していく予定です。

基本目標②-1 白石町の魅力発信では、まず（1）道の駅整備事業は 6 月 1 日のオープンに向けて順調に工事が進んでいるところです。（2）がばいよかこ発信事業は、「道の駅しろいし」のオープン PR を行うことで、町の特産物等の PR を行っています。具体的には福

岡市で毎月1回水曜市の開催、3月にはJR長崎駅でもPRで販売活動を行いました。また、ここには書いていませんが、肥前さが幕末維新博でも特産物はもちろん、白石町のPRを行っております。

2 定住促進、移住支援ですが、(2) 空き家・空き地バンク、お試し移住については、昨年3月から空き家バンクを創設し、現在登録件数17件、成約件数7件の実績となっております。

3 地域観光資源の再発見は、(4) 地域資源活用観光振興事業での計画事業の実施を行っております。平成30年度は観光パンフレットの作成、観光案内板の設置、年間体験（観光・農業）の企画、モニターツアーを実施しました。観光地でのイベント開催として稲佐神社での節分祭を予定しておりましたが、残念ながら雨天中止となっております。

基本目標③-1 結婚推進対策の充実として(1) 婚活サポート事業の拡充では、婚活サポーターの皆さんがイベントを2回、セミナーを1回開催され、イベントの参加者が成婚されたため、成婚総数は3組となっております。

2 出産支援として、(2) 多子世帯への助成については現在も行っていますので引き続き行っていきますが、今年10月から消費税率が上がるのに伴って3歳、4歳、5歳の保育料無償化が始まる予定となっております。

3 子育て支援では(3) 子育て支援の情報発信として母子手帳アプリの導入を行いました。

基本目標④-1 町民協働によるまちづくりでは(1) 地域づくり協議会の設立支援として今年度「協働による地域づくり検討委員会」を設置し、7回の協議をしていただきました。そしてその中で目指す将来像として、「町民協働によるまちづくり」の方向性を町へ示していただいています。

2 安全・安心で快適な住みよいまちづくりでは(1) 自主防災組織の組織化推進として直接この取り組みとは関係ありませんが、災害時に復旧用品や避難所で必要なものを迅速に供給できるようにコメリ災害対策センターと「災害時における物資供給に関する協定」を締結しております。

3 誰もが活躍できるまちづくり(2) 女性活躍の推進ですが、スケジュールにあげている取り組みは行えていませんが、本町の平成30年4月1日における意思決定の場と位置づけられる審議会・委員会等における女性の参画状況は29.9%と目標の30%とほぼ同じ数値となっております。本日は女性参画を促し、男女共同参画の取り組みをされているみらいネットの会の活動の様態も含めて映像をご覧ください。

(映像での説明)

基本目標①-3- (2)

主に佐賀大学生をメンバーとした地域活性化団体SSJ(シーディングサポートオブジャパン)が町内で白石町の特産物となるよう白い農産物の開発に着手し、その初収穫が昨年7

月に行われています。今回はトウモロコシとオクラに取り組んでいただいています。しかし、多くが被害を受けており、トウモロコシは白くなりましたが、オクラは白くならなかったと聞いています。収穫したトウモロコシを町へ持ってきていただき、町長へ活動を報告していただきました。現在、メンバーの一部は町内の空き家を借用して活動を続けられており、今後は地域の行事にも積極的に参加したいということです。

基本目標②-1- (2)

肥前さが幕末維新博「しろいしの日」です。県内の 20 市町全てがイベントの日を設定しまして、白石町は 11 月 23 日（金）に行いました。当日はステージイベントで福富太鼓や長浜獅子舞、ハスの実リズムダンスなどが行われ、飲食・販売ブースでは、商工会女性部や直売所などたくさんの方々から白石町の PR に協力していただきました。きな粉もちの振り舞いやもち投げを行い、当日は 5 千人のお客さんが来場され、市町イベントの中では一番の盛り上がりだったと評価をいただいております。今年度は毎週木曜日にエフエム佐賀で「しろいし物語」というラジオ番組を行っており、当日はその公開生放送を行いました。

基本目標②-2- (2)

空き家バンク事業についてです。空き家バンクとは空き家の所有者に空き家物件を登録していただき、町内外の空き家の利用希望者に向けて空き家の売買・賃貸借状況を発信するもので、白石町ホームページ内の空き家バンクサイトへアクセスしていただきます。また、空き家バンクの利用促進や移住定住を推進するための支援制度も行っております。

基本目標③-1- (1)

婚活サポート事業です。婚活サポーターは今年度から第 3 期サポーターとして 20 名の方に活動していただいております。今年度はイベントやスキルアップセミナーを開催していただきました。事業を通して結婚された方もサポーターの皆さんに感謝をされています。また、新年度からは新規サポーターも含めて 22 名に活動をお願いしております。

基本目標④-1- (1)

「白石町協働による地域づくり検討委員会」の模様です。町では多種多様化する町民ニーズに対応するには地域のコミュニティと協働することが必要と考え、新しい地域自治運営の仕組みとして地域づくり協議会の設立を支援することとしています。検討委員会では、仕組みやルール作りを 7 回にわたって協議を行っていただきました。実際地域づくり協議会を作る時に話し合う方法として用いられるワークショップを委員の皆さんにも体験していただきました。

基本目標④-2- (1)

安全・安心で住みよいまちづくりとして災害時における物資供給に関する協定を NPO 法人コメリ災害対策センターと締結しました。災害時に復旧用品や避難所で必要な生活用品などを迅速に供給することを目的としています。

基本目標④-3- (3)

男女共同参画みらいネットの会の活動の模様です。みらいネットの会では男女平等の社

会を目指して「災害を通じて地域を考える」のようなセミナーや学習会を積極的に行っていただいております。

スケジュール等に関する説明は以上です。

(質疑等)

委員 保育園の無償化等により女性の働く機会が増加。それに伴い、家事をする時間を短縮するためにカット野菜や惣菜などの加工品の購入が多くなっている。

事務局 全国的にカット野菜、キット野菜が増加しており、中食が増えてきている。農業基盤の町であるため農業関連の企業が誘致できれば嬉しい。

委員 町に住み続けるには働く場も必要。加工場を作ることで働く場もできるのではないか。

会長 今年度から県企業立地課に職員派遣。できるだけ早く企業誘致が実現できれば良い。

委員 高齢化が進むにつれて買い物難民が増えるのではないか。特に福富はスーパーがない。今は車で買い物に行けても運転できなくなる時に買い物に行けなくて困ると思う。

事務局 公共交通（いこカー）で買い物に行けるように対応はしている。また、地域の課題として地域づくり協議会ができた時に話しあってもらうことで解決もできるのではないか。

委員 道の駅ができることで商店街の客足が減り寂しくなるのではないか。

会長 道の駅に来てもらった後に町内の観光地を回ってもらえるような仕組みとして観光パンフレット等も作成している。道の駅でも町内の観光地を PR する予定。

委員 4月から県の指定を受けて「地域とつながる魅力づくり」として事業を立ち上げることになった。次世代の生徒の育成に地域との連携、地域の良さ、学校の良さなどを広くアピールして地元定着を図る。商店街、農家、小・中学校などと連携して進めて行きたいので協力をお願いしたい。

委員 専門高校として地域農業との連携、6次産業化等に取り組んでいる。また、地域の良さをアピールし、県内就職を推進している。

会長 今後も皆様方には色々な面でお世話になる。連携をお願いしたい。

6. その他

7. 閉会【会長】

総合戦略については平成31年度までとなっている。今後も本日いただいた意見を参考にさせていただき、推進していきたいと思っております。本日はありがとうございました。